

# Management Club Report

Mar. 2009/Vol. 75

## Monthly Opinion 《上機嫌な歯科医院を作る》

『不機嫌な職場』という本がありました。職場での対話が少なく、お互いが深く関わろうとせず、何となく不機嫌に見える職場が多くなったとして、そのような会社は生産性が上がらないぞという警告本で、その逆を行く“学ぶべき職場”として、グーグル、サイバーエージェントといった新興の大会社に混ざって大阪の某歯科医院が紹介されていました。

一介の歯科医院がそのような取り上げられ方をしていることに「何故わざわざここに歯科医院が…？」と奇異に感じたものですが、全従業員が楽しく働いている職場の好事例ということで編者の目にかなったようでした。

ただ、その歯科医院での取り組みは、無理に盛り上がりを演出しているイメージが伝わってきてしまうような書かれ方をしていましたので、歯科医院の本来のあり方としてはどうなのかと、やや違和感を抱いたのも事実です。

『劇場型の政治』ならぬ『劇場型の職場』は、表面的な盛り上がりを見せることはあるかもしれませんが、知的な高揚には結びつきにくく、『医療』という仕事には向いていないのではないかと思ってしまうのです。

しかし『不機嫌な職場』が生産性にブレーキをかけることは事実ですので、何らかの方策を講じて『上機嫌な職場』を作ることは歯科医院経営を安定化させる上で必要なことに違いありません。

10年目を迎えて私たちも、多くの歯科医院の現場に触れる中で、私たちに歯科医院としてあるべき『上機嫌な職場』について確信めいたものを捉えることができるようになった気がしています。今月はその基本となる考え方についてまとめてみました。

1

### オフィスワークとは異質な、歯科医院での仕事

#### 『不機嫌な職場』における不機嫌さ

歯科医院の関係者がこの本を読んでもあまりピンと来ないと思います。おそらく「うちの医院ではこんなことは起きていない」といった感想を持つだろうと思うからです。

例えば、『不機嫌な職場』に登場する不機嫌振りには、凡そ次のようなことが挙げられています。

#### ①新しいことに参加してくれない